

ANNUAL REPORT

2023-2024



才能教育研究会本部事務局

所在地 〒390-8511 松本市深志 3-10-3

T E L 0263-32-7171

F A X 0263-32-7451

メール talent@suzukimethod.or.jp

W E B <http://www.suzukimethod.or.jp>

2024年(令和6年)7月20日発行



どの子も育つ、育て方ひとつ

スズキ・メソードは「才能は生まれつきではない」という創始者鈴木鎮一の理念により終戦直後に始まりました。どんな子どもも無限の可能性をもって生まれてきます。愛情をもって導かれ正しい訓練を繰り返すことで高い感性と能力をもった人間に成長できます。75年以上に渡る実践により、多くの子どもが立派に育ち、豊かな人生を送り世界の平和に貢献してきました。スズキ・メソードへの共感の輪は世界74の国と地域まで広がり、そして今も拡大を続けています。平和を希求する次世代の人づくりを目指すスズキ・メソードの灯は、混沌を深める世界情勢の中で平和な未来の実現に向けた貴重な道しるべとして人々の心を照らしていきます。

① 人は環境の子なり

私たちスズキは、まわりの環境からあらゆるものを受け取り、身につける「母語教育」法を基に、音楽を通してどのような環境・社会においても高い能力を発揮できる眞の文化人の育成と、豊かで平和な社会創造を目指した教育活動を行って参ります。

② 真の文化人の育成

私たちスズキは、豊かな心と感性を持つ眞の文化人の育成に寄与します。世界の共通言語である音楽、そして楽器演奏の習得を通じ、人が生まれながらに持つ大きな力(生命の力)に働きかけ、高い能力と多様な可能性を発揮する素地を培います。

③ 調和した平和な社会創造

私たちスズキは、音楽を通して、美しいものを知り、誠の心を持ち、正しい行いをする人々の集う、調和した平和な社会創造を願い、目指します。



⑤ 次代を見据えた教育法の探究

私たちスズキは、研究を怠らず、より高い教育法を常に探究し続けます。創始者・鈴木鎮一の意志を受け継ぎ、伝えながら、同時に次代を見据え、メソードの進歩発展にも絶えず取り組みます。

④ 支えあう温かいファミリー

私たちスズキは、世界中の国と地域に広がる、皆が強い絆で結ばれた「ファミリー」です。先生、家族、仲間、それぞれの立場を超えて互いに学びあい、支えあう温かい環境の中で、育ちあいます。



CONTENTS

どの子も育つ、育て方ひとつ	02
理事長・会長挨拶	04
年間行事表	05
MAIN ACTIVITIES 2023-2024年の主な活動	06
TOPICS	
第3回スズキ国際ティーチャー・トレーナー会議	10
世界の指導者養成制度	12
新しい指導者像を求めて	14
スズキ・メソードの広報活動(将来を見据えた広報活動の改革)	16
2022年度 収入と支出の内訳・ご支援のお願い	17
スズキ・メソード 75年のあゆみ・特別講師の紹介	18
創始者 鈴木鎮一について・鈴木鎮一に関する新たな学術研究紹介	19

理事長・会長挨拶



音楽と共に新たな時代へ

コロナの影響が落ち着き、対面での活動が再開される中、2023年7月には4年ぶりに夏期学校を開催し、多くの参加者を迎えることができました。コロナ禍で広まったオンライン技術を取り入れ、スズキ・メソードの活動は、より効率的かつ緊密なものへと進化を遂げています。

世界に広がるスズキの輪

2023年10月、世界中のベテラン指導者が松本市に集結し、スズキ・メソードの未来について活発な議論が交わされました。海外では学校教育への導入など、各國で独自の発展を遂げている一方、私たちも更なる向上を目指しています。お互いの違いを尊重しながら、よりよいスズキ・メソードの実現に向けて意見を交換し、次回は2027年に再び松本での開催を決定しました。日本のスズキ・メソードは、発祥の地として、これからも世界をリードしていく重要な役割を担ってまいります。

子どもたちに希望の音を

創立100周年まであと20年あまり。その時もなお、スズキ・メソードの本質を保ち続けるため、今から着実に準備を進めています。世界には対立や争いが絶えませんが、私たちは「音楽を通じて豊かな生活と平和な社会を実現する」という理念を常に胸に刻んでいます。未来を担う子どもたちに希望と勇気をもたらすことができるよう、これからも全力で取り組み、音楽教育を通じて社会に貢献してまいります。

早野龍五

公益社団法人才能教育研究会 理事長・会長

1952年生まれ。岐阜県大垣市出身の物理学者（理学博士）、東京大学名誉教授。幼少期に鈴木鎮一に師事。反物質の研究により仁科記念賞、中日文化賞を受賞。2016年より才能教育研究会第5代会長。近著に『「科学的」は武器になる—世界を生き抜くための思考法—』（新潮社）。

年間行事表 2023



2023.4

春のこどもフェスティバル 4/2
軽井沢でG7外相会議歓迎演奏 4/16



ヴァイオリン研究会 (豊田耕児名誉会長)
松本音楽院発祥の地に記念銘板を設置 11/19

フルート科合奏会 5/13
OB・OG会第15回コンサート演奏会 5/14
スズキチルドレンピアノコンサート 5/28
ピアノ科研究会 5/28
(東誠三先生、兼重直文先生/三重大学名誉教授)

ヴァイオリン科研究会 6/8
(吉川豪一先生)
ヴィオラ研究会 6/30
(豊田耕児名誉会長)

夏期学校 7/27-31
チェロ科研究会 8/1-2
第12期定期総会 8/21

2024.1



関東地区指導者会新年研究会 1/8
テンチルドレン60周年記念コンサートin大府 1/21



ヴァイオリン科研究会 1/26
(特別講師 竹澤恭子先生マスタークラス)



甲信地区大会 10/1
スズキ国際ティーチャー・トレーナー会議
10/13-15
全国指導者研究会 10/15-18
国際スズキ・メソード協会(ISA)理事会
10/15-18

チェロ科研究会 12/10
(特別講師 菊地知也先生マスタークラス)
スズキ教育法研究会
「トナリゼーションについて」
12/13 | オンライン開催

春のこどもフェスティバル 3/20
ピアノ科卒業式 3/10,20,27,30



→ 2024

MAIN ACTIVITIES

2023-2024年の主な活動

夏期学校



開催期間：2023年7月27日（木）-7月31日（月）

開催地及び開催方法：才能教育会館・スズキ・メソード研究所・まつもと市民芸術館・松本市勤労者福祉センター・あがたの森文化会館・深志神社
及びオンライン（ハイブリッド形式）

参加者数：現地対面442名 オンライン92名

4年ぶりの対面現地開催と 同時オンライン開催

開催1週間前に予期せぬコロナ感染拡大で急遽現地開催を断念してから1年。2023年の夏は4年ぶりに松本の街に元気なスズキの子ども達の笑顔が戻ってきました。感染防止のため各教室入人数を少くしたため参加希望が通らないケースがでてしまい次年度への課題となりました。実行委員の周到な感染リスク対策と例年のような指導者・特別講師の精力的な指導、特別講師による充実したコンサートにより無事終了し「夏期学校」は完全復活しました。遠地にお住まいの方、旅行スケジュールの立てられない方のためにほとんどのプログラムの同時オンライン配信にも挑戦しました。指導者・事務局の配信チームはミスの許されない同時配信を蓄積したスキルとチームワークで突発的なアクシデントにも瞬時にに対応することができます。本会にとって大きな財産となりました。



※全国指導者研究会の同時オンライン配信

スズキ国際ティーチャー・トレーナー会議

詳細はP10~13をご覧ください。

開催期間：2023年10月13日（金）-10月15日（日）

開催地及び開催方法：まつもと市民芸術館

参加者数：現地対面約260名（見学・同行者含む）

全国指導者研究会



開催期間：2023年10月15日（日）-10月18日（水）

開催地及び開催方法：才能教育会館・まつもと市民芸術館 及びオンライン（ハイブリッド形式）

参加者数：現地対面261名 オンライン218名

多面的なテーマ設定による 充実した指導者研鑽の4日間

2023年の指導者研究会は、スズキ国際ティーチャー・トレーナー会議と連続させるために従来の6月から10月に変更して開催しました。初日は国際ティーチャー・トレーナー会議参加の海外指導者による日本の生徒への個人・グループレッスンとその発表演奏会で始まりました。2日目からの研修のテーマは楽器の奏法、合奏実践、指導法、楽曲研究、教育行政、卒業検定、海外スズキ・メソード動向、等多岐に渡りました。普段は教室レッスンに没頭する個々の指導者が一人では勉強できないテーマについて、専門家やプロ奏者の講義・レッスンや、指導者どうしの研究成果共有を行い、極めて意義のある研究会となりました。また、見学参加した海外スズキ・メソード指導者との交流や海外との比較によるフィードバックなども、参加した指導者にとってはこの研究会でしか得られない収穫となりました。



卒業制度



実施期間：卒業録音提出2023年10月1日-11月30日

卒業検定評価2023年12月1日-2024年2月29日

卒業式（発表演奏）2024年3月10日-3月30日（全国5会場及びオンライン配信）

検定数：ヴァイオリン科（ヴィオラ含む）1878本/チェロ科196本/フルート科32本/ピアノ科1256本

スズキ・メソードの大きな特徴である「卒業制度」は2023年度も例年同様に行われました。指導者と生徒が提出に向けて入念に課題曲を仕上げて録音し、それを特別講師とベテラン指導者が1人ずつの演奏を丹念に聴いて評価を生徒と受け持ち指導者にフィードバックします。これによりすべての生徒の成長が促され、また指導者の指導力向上の支えとなっています。データ提出への切り替え3年目となり、メディア郵送から音源データへの切り替えは更に進みデータ提出は2022年度の78.7%から80.9%へ上昇しました。

テンナルドレンツアーアー60周年記念コンサートin大府



開催期間：2024年1月21日

開催地及び開催方法：大府市愛三文化会館 もちのきホール

スズキ・メソードの海外展開の大きなきっかけとなった米国への生徒10名の演奏ツアー開始の60周年を記念して、New Stars Concertと題したコンサートが愛知県大府市で開催されました。記念コンサートでは全国から選ばれた6名の生徒が60年前のツアー参加生徒のような卓越した演奏を披露しました。ツアーシリーズ第1回に参加した早野龍五会長と第9回～第12回に参加した大府市出身の世界的ヴァイオリニスト竹澤恭子氏のトークセッションもあり、大府市関係者、大府市民の方々に改めてスズキ・メソードの歴史と可能性を感じていただきました。

※バイオリンによるまちづくりの推進を掲げる大府市とスズキ・メソード（公益社団法人才能教育研究会）は2022年12月に事業協定書を締結しています。

その他の活動

2023年4月2日 / 2024年3月20日

春休みこどもフェスティバル

2023年、2024年は春休み期間中に、東京で会員（指導者・生徒・保護者）が集まる「春休みこどもフェスティバル」を開催しました。コロナ禍の中止もあり、多数の来場者が集い大盛況となりました。ヴァイオリン・チェロ・フルート・ピアノの指導者・特別講師によるグループレッスンやプロ奏者によるミニコンサートなど盛りだくさんのプログラムを楽しんでいただきました。



すみだリバーサイドホール

2023年4月16日

軽井沢G7外相会議歓迎演奏

軽井沢で行われたG7各国の外務大臣会合の歓迎行事にて地元のスズキ・メソードの子どもたちが「キラキラ星変奏曲」などでお出迎えしました。おもてなし外交を重視する日本側の意向にスズキ・メソードの子どもたちが花を添える形で、国際親善の一翼を担うことができました。各国の外相は子どもたちの演奏姿を撮影し、公式SNSを通じて感動のコメントとともに世界に発信しました。



JR軽井沢駅南口 ※軽井沢新聞社運営 軽井沢ウェブより

2023年5月28日

第21回スズキチルドレンピアノコンサート

スズキ・メソードピアノ科では2年ごとに全国各地で場所を変えてピアノコンサートを開催しています。2023年は愛知県東海市芸術劇場で開催しました。準備から当日の係まですべてピアノ科指導者の手作りのコンサートです。コロナ禍により5年ぶりの開催となり、全国各地からオーディションにより選抜された20名の生徒は、待ちに待った晴れ舞台でバッハ、モーツアルトからバルトーク、シャブリエと多彩な作曲者の難曲を見事に演奏しました。



愛知県東海市芸術劇場

2023年11月19日

スズキ・メソード発祥の地銘板設置

1946年に産声をあげたスズキ・メソード（才能教育運動）の当時の最初の教室（松本音楽院）があった場所は既に当時の面影はなく、当時を知る人々の思い出の中だけに存在していました。正確な場所を歴史的史跡として残したいという本会の念願に松本市が呼応し、関係者の全面協力による正確な場所の特定が行われ、英日2ヶ国語で表記された銘板を設置することができました。秋晴の日曜日に現地で落成式典が行われました。当日は子どもたちが銘板の前で教本曲を演奏しました。



長野県松本市「華のうら町屋台はしご横丁」

TOPICS

第3回スズキ国際 ティーチャー・トレーナー会議

松本市で開催

スズキ・メソードの「ティーチャー・トレーナー」とは「先生を養成する先生」です。世界で活躍する約510名のスズキ・メソードのティーチャー・トレーナーは将来のスズキ・メソードを築く重要な使命を担っています。グローバル化、世代交代、オンライン普及等の地球規模の共通課題に対応するため、2019年のスペイン・マドリードに続いて2023年10月に、発祥地である日本の松本市で世界のティーチャー・トレーナーが集合し3日間の国際会議を行いました。



マスリースズキの
解説記事

ホスト国	日本（TERI=公益社団法人才能教育研究会）
参加組織	TERI（日本）PPSA（オセアニア州）SAA（北・中・南米州）ARSA（日本除くアジア州）ESA（欧州・旧連邦・中東・アフリカ）
参加国（地域）	日本・台湾・韓国・インドネシア・マレーシア・フィリピン・米国・カナダ・メキシコ・ブラジル・アルゼンチン・ペルー・英國・スペイン・イタリア・イスラ・デンマーク・フランス・オランダ・ニュージーランド・オーストラリア/全21カ国と地域
参加者数	海外 98名（同行パートナー20名含む） 日本 54名
見学者	海外 6名 日本 76名
実行委員	日本 8名（事務局含む・一部日本参加者と重複）
アドバイザー	日本 2名 海外 2名
ワーキングチーム	日本 22名
ボランティア通訳	海外 12名 日本 29名



「グローバル化」と「次世代継承」

グローバル化

スズキ・メソードの子どもたちの演奏映像や実演が米国で紹介されると、1960年代後半からスズキ・メソードを学ぼうと世界各国から多くの指導者・研究者が留学生として鈴木鎮一のもとを訪問しました。留学生たちは本国に戻りそれぞれの方でスズキ・メソードを広めていきました。教本は世界統一されました。指導者養成カリキュラム・認定制度・教室レッスン形態はそれぞれの国や地域で独自に発展しました。グローバル化により多くの新しい国でスズキ・メソード指導者が誕生し、現在は世界を5地域にまとめ、それぞれの地域で域内統一された制度で運営されています。オンラインコミュニケーションの普及により異なる地域間の指導者養成が可能になり、指導者養成制度の整合性・互換性という新たな課題をもたらしています。今回の国際会議では、この問題について各国のベテラン指導者の熱い議論が交わされました。

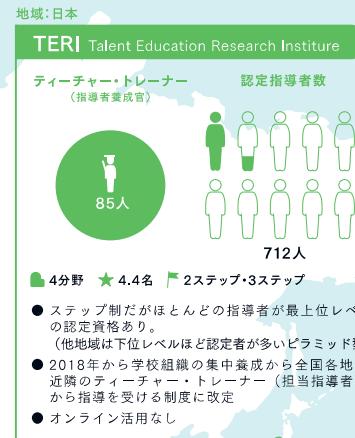
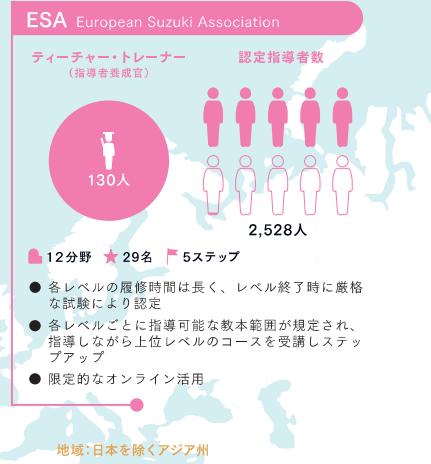
次世代継承

スズキ・メソードの指導者は鈴木鎮一に直接教えを受けた世代が中心でした。没後25年がたち、創始者を直接知らない世代が指導者養成制度によって間接的にスズキ・メソードを習得します。歴史文化や教育制度が異なる世界各地において、スズキ・メソードの本質を正しく次世代に継承していくためには、指導者を養成する世界のティーチャー・トレーナーが共通の価値観を持ち次世代指導者を養成することが重要となります。今回の国際会議では、スズキ・メソードの特徴である「卒業制度」や「10歳からの能力開発」についてこれからどのように継承していくのかについて、活発な意見交換と合意形成を行いました。

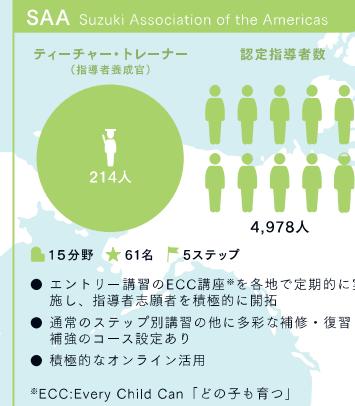
世界の指導者養成制度

スズキ・メソードの指導者養成制度は世界への普及の過程において5つの地域に集約され、現在はそれぞれの地域が独立して運用しています。今回の国際会議では人數規模や養成から認定の制度の違いをお互いに尊重しながら、グローバル化による指導者の地域間移動への対応についてお互いの合意形成を行いました。

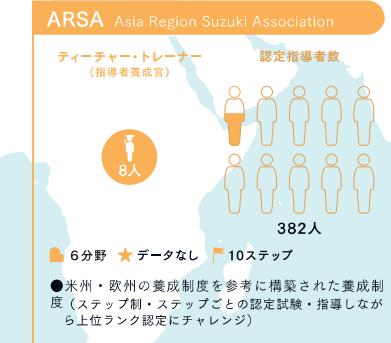
地域: 欧州・旧ソ連圏・中東・アフリカ



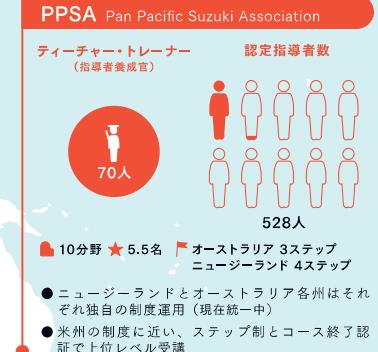
地域: 北・中・南の米州



地域: 日本を除くアジア州



地域: オセアニア州



日本

世界

認定ライセンス

- ほとんどの指導者が最上位レベルの認定取得者
- 初級指導者（ピアノ・フルートのみ）、准指導者ライセンスは海外の下位～中位認定ライセンスに近く、指導しながら最上位を目指す
- 各レベル終了時の認定は地域によって制度が異なる

指導者養成

- 全国のティーチャー・トレーナーが、近隣地域の指導者志願者に認定に必要なレッスン・講義を行う
- 指導者養成コースはスズキ内で完結（音楽大学等の履修者の免除課程はあり）
- スズキ内の養成コースに加え、外部機関（大学等）で機関公認のスズキ指導者養成カリキュラムがある

オンラインレッスン

- なし
- あり（ティーチャー・トレーナーが自国・地域にない場合でも積極的な活用で指導者養成を促進）

新指導者の認定

- 減少傾向
- 地域・国・楽器によっては維持

① グローバル化の課題

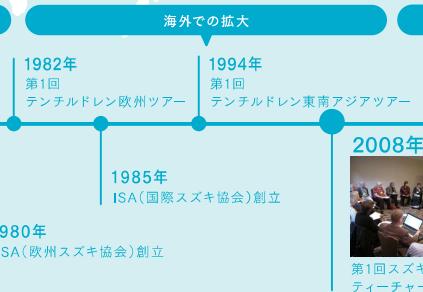
認定指導者が異なる制度の地域に移住して指導継続する場合の扱いについて

② オンライン普及の課題

米州では指導者養成レッスンの4～5割はオンラインが主体。欧州やアジアでもティーチャー・トレーナーの絶対数が少なく、違う国のティーチャー・トレーナーからオンラインレッスンを履修するケースを許容している。この有効性と、異なる制度地域へのオンライン活用による養成の広がりについて

会議での合意事項

- 指導者が別地域への移動を希望する場合、受け入れ側は条件を決め、開示する
- 移動先では現地地域のスズキ組織に所属し、規約を遵守する
- 上記が実行された場合には、移動前地域の認定ライセンスでスズキ・メソード教室を開設できる



今回見えた課題に
日本はどう取り組むか

「新しい指導者像を求めて」
次のページ→

二刀流指導者たちの1週間を 公開してもらいました

スズキ・メソード指導者 他 その他の活動 休 休日



九州地区ヴァイオリン科指導者
坂本董 先生

月	休	●演奏の仕事用に譜読み
火	休	●オーケストラの研究
水	休	●幼稚園指導など準備
木	休	●準備日
金	ス	●教室レッスン
土	ス	●幼稚園でヴァイオリン保育
日	ス	●教室レッスン
	ス	●文化センターで教室レッスン



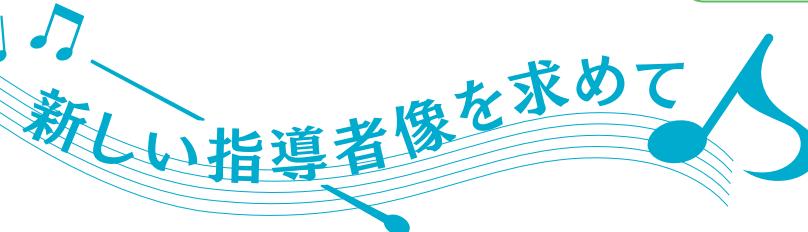
関東地区ピアノ科指導者
鈴木雅之 先生

月	休	●自宅でのんびり過ごす
火	休	●授業準備や練習
水	休	●家事
木	休	●中高で2コマ授業
金	ス	●中学校で5コマ授業 ●その後3人のレッスン
土	ス	●中学校で3コマ授業 ●その後、6人のレッスン
日	ス	●午前午後に、7人のレッスン ●適度に休む



北海道・東北地区ヴァイオリン科指導者
折笠友紀 先生

月	火	●幼稚園で教室レッスン
水	火	●0～3歳児教室を展開 ●教室レッスン
木	水	●年長ヴァイオリン保育/ 未満児の授業 ●教室レッスン
金	木	●演奏活動の譜読み ●教材作り
土	金	●教室レッスン
日	土	●場所を変えての教室レッスン
	日	●季節により、合奏団の演奏活動 ●0～3歳児、未満児の教材作り



甲信地区ヴァイオリン科指導者
花村祐美 先生

東京の大学に進学してすぐに、大学や関東のオーケストラに所属しました。その活動の中で、東日本大震災から約2年後に復興応援コンサートを開催したことが、指導者への道を歩む大きなきっかけになったと思います。音だけで活力も届けることができるって、なんて尊い体験なんだ！と、嬉しい気持ちでいっぱいになり、同時にこの経験を私

自身だけでなく、もっと多くの人と共有できたら幸せだとも思い決意しました。指導者になるためには社会経験とお金も必要と考え、地元の金融機関に2年間勤務しました。指導者になった今は「育てる」ことの面白さと責任の大きさを感じる日々です。実は、週3日のスズキ・メソードでの指導以外にカフェでマネージャーとして働いています。これはスズキの理念とも共通点があり、どちらも育てることを大事に楽しく働けています。地域との繋がりも私にとって大事なものです。



関東地区チェロ科指導者
鈴木佳都紗 先生

中学校に上がる頃、ある時のレッスンの際に当時の先生からスズキの指導者についてのお話をありました。母がその時、本気だったか分からぬですが「では将来スズキの先生なつたら？」と。その言葉がしつこく、そこからスズキの指導者になることを視野に入っていました。それから心変わることなく、そのまま今に至ります。グループレッスンのお手

伝いをしたり、クラスの発表会や支部コンサートなど、スズキのイベントは全て参加していましたので、子ども達との接し方を早めに経験することができました。今は、お子さんによってどうアプローチするかをあれこれ考えることが楽しく、また大人の生徒さんからも学ぶことが多く、少しづつですが、教室の雰囲気が出来上がってきました。レッスンの進め方は先生によって様々で、とても参考になりましたし、私自身の視野も広がりました。

環境変化の加速

日本の出生数は1970年代以降一貫して減少し、コロナ後は減少が加速しています。これと並行して共働き家庭の増加、習い事の多様化、国策の子育て支援策の浸透等、幼児～子どもを取り巻く保育・教育環境では大きな変化の波が起きています。また日本のスズキ・メソードは生徒数・指導者数の減少と保護者層の変化（昭和生まれから平成生まれへのシフト）にも直面しています。これらの状況を踏まえ、これから環境変化の中でスズキ・メソードの理念を新しい社会に即していくかに実践できるかが大きな課題となっています。

解決策① 新しいスズキ指導者像の確立

時代環境に対応する感性と行動力を持った指導者の養成が急務となっています。そのためにスズキ・メソード全体の運営も指導者自身がより広く社会との接点をもち、環境の変化に対応しながら活躍できる養成システムが必要です。さまざまな社会経験を経た指導者、他の職業現場との相乗効果をめざ

す二刀流の指導者等の新しい指導者像も視野に入れ、多様な社会環境の中でスズキ・メソードを伝え実践できる指導者の実現を目指しています。

解決策② 指導実践現場の拡大

環境変化の対応には実践場所の多様化も大きな課題となっています。従来の教室での個人レッスンや家庭での復習を主とした形を、保護者の経済的・時間的な制約を踏まえた新しいレッスン教室形態に変えていく事が必要となっています。これを実現する為には、外部教育機関との協業関係の推進

今後の課題となります。海外のスズキ・メソードの拡大は、様々な公的教育機関との協力関係により発展した結果です。世界に広がるスズキ・メソードとの連携協力により、同様の視点に立った取り組みを進めていきます。

スズキ・メソードの広報活動(将来を見据えた広報活動の改革)

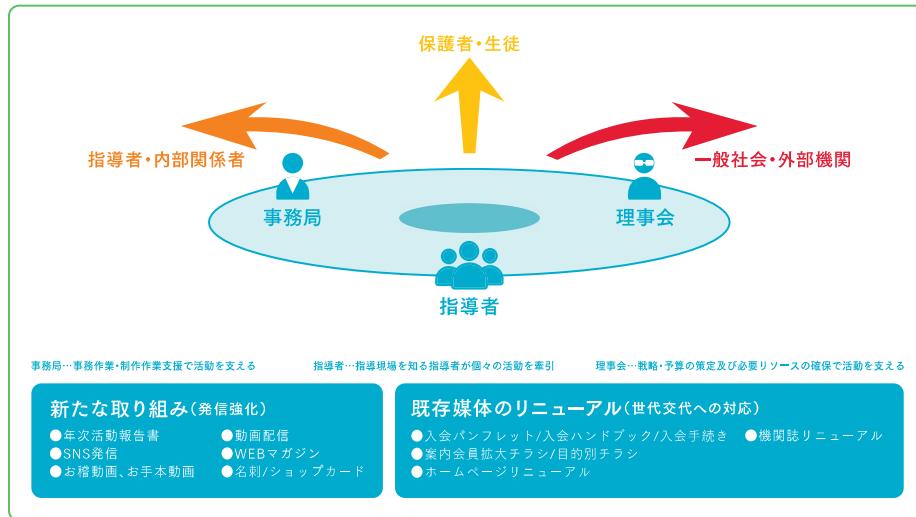
スズキ・メソードでは、会員層（指導者・保護者＆生徒）の世代交代、社会環境の変化、テクノロジーの進化を広報活動刷新の機会ととらえ、将来を見据えた広報活動の強化をはかっています。

オンライン普及をきっかけに新しい広報活動戦略がスタート

コロナ禍により定着したオンライン基盤を広報活動強化にフル活用しています。全国に点在する関係メンバーが場所・時間の制約なく活動することにより、スピードと成果が飛躍的に高まっています。

①全国規模の広報活動

新たに全国規模の混成メンバー（事務局・指導者・理事会）で広報ターゲットごとにチームを結成しました。オンライン基盤を活用し、従来ないスピードで広報活動に取り組めるようになり、新しい成果を生み出しています。



②広報チームメンバーのメッセージ



愛知県名古屋市
理事・広報委員長
柳直樹

メディア報道の最前線を経て、大学・高校を擴する私学の經營を預かっています。音楽を通じて「すべての子どもが立派な市民に育つ」というスズキ・メソードの理念と実践は、混沌を極める現代社会にとって大きな希望となりうるでしょう。自らの経験も活かし、これから世代の保護者や生徒の皆さんにスズキ・メソードの魅力と可能性を広くお伝えできるよう、関係メンバーと取り組んでまいります。



東京都港区
事務局顧問
南原 知子

チーム毎の定期会議や臨機応変に必要時に行う複数チームの合同会議など、すべて全国のチームメンバーがオンラインで集結し即効性のある活動を目指しております。指導現場との両立・多忙を極める指導者の皆さんを事務作業面でサポートさせていただくと共に、全国からの様々な相談への対応を踏まえ、今後も指導者・保護者・生徒の皆さんのお役に立つ広報活動ができるよう心がけてまいります。



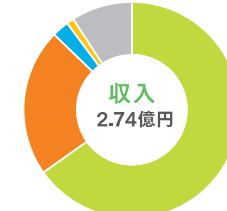
宮城県仙台市
ヴァイオリン科指導者
飯塚 大

会員向けWEBマガジン「Fruitful」を4名のチームで編集し年間24回発信しています。会員様の様々なライフステージに併せて読んでいただけるよう、子育てや教育法、脳科学、エッセイなど、生活に密着した話題をスズキ・メソードに縁のある各分野の専門家に平易な語り口で綴っていただき、読みやすく編集してお届けしています。会員以外の皆様からの公開要望が多いのが読み物です。スズキ・メソードのファン拡大のために一般公開も視野にいれて更に充実させたいと考えています。

2022年度 収入と支出の内訳

※本会は5月末決算の為、財務報告は2023年5月末までの決算報告です。

- 会費収入(59.0%)
- 事業収入(26.9%)
- 補助金・助成金(1.1%)
- 寄付(0.2%)
- その他(12.8%)



- 共通運営費用(20.5%)
- 事業活動費用(69.7%)
- 維持費用及び積立(9.8%)



スズキ・メソードの支出は全体約2割が共通運営費用（主に人件費）、個別の事業に関連する支出が約7割、残りは維持費用及び積立です。



貸借対照表

<https://www.suzukimethod.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/2022BS.pdf>



正味財産増減計算書

<https://www.suzukimethod.or.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/2022zaisan.pdf>

ご支援のお願い(賛助会員のご案内)



一般会員・個人

本会の目的および事業に賛同し
支援をする個人

年額会費 5,000円

お支払い方法

入会手続きの際にクレジットカードを登録していただきます。
会費は年1回年額を請求させていただきます。



協力会員・法人

本会の目的および事業に賛同し
支援をする法人

年額会費 30,000円(一口)

お支払い方法

入会手続き後、下記口座まで銀行振り込みでお支払いください。
※手数料はご負担願います。

支店名 りそな銀行松本支店
当座預金 0100439
名義 公益社団法人才能教育研究会

現在の法人賛助会員様

スズキ・メソード幼児教育研究会 / 伊那食品工業株式会社 / 株式会社S.I.E /
株式会社アルファ・ファイブ

賛助会員の3つの特典

1 会報・機関誌を送付

2 本会主催事業への案内状を送付

3 会報・機関誌・WEBに法人名を掲載



理事長・会長
早野龍五

皆様のお力添えに感謝いたします。

子どもたちが楽器を通して真剣に打ち込む姿と、できたときの歓びは、大きな人間的成长を促す力となります。私たちスズキ・メソードは、「どの子も育つ」ことを大切に、そして、時代が移っても変わることなく、さらに拡張・発展させたいと願っております。

詳しくは、スズキ・メソードの
WEBサイトにて「賛助会員入会
のご案内」をご覧ください。



スズキ・メソード 75年の歩み

1940年代

1946年（昭和21年）9月、松本市下横田に松本音楽院創設。鈴木鎮一院長就任。
才能教育研究会の前身「全国幼児教育同志会」を結成。

1950年代

1950年（昭和25年）10月、「社団法人才能教育研究会」が設立認可。
1951年（昭和26年）長野県霧ヶ峰高原で第1回夏期学校開催。生徒109名と指導者11名が参加。
1955年（昭和30年）3月、東京体育館での第1回全国大会（現グランドコンサート）に1200名の生徒が参加。
1956年（昭和31年）第1回全国指導者研究会（松本市郊外）に41名が出席。

1960年代

1964年（昭和39年）3月、第1回海外演奏旅行。10人の生徒（テン・チルドレン）がアメリカ各地で演奏。
1967年（昭和42年）8月、松本市深志に才能教育会館落成。
アメリカ弦楽指導者協会（ASTA）のメンバー68名が来日し、夏期学校を視察。

1970年代

1970年（昭和45年）大阪万博の国連デーに1000名の生徒たちが、お祭り広場で祝賀演奏。鈴木会長 熱三等端宝章。
1975年（昭和50年）6月、第1回世界大会をハワイで開催。
日本、アメリカ、オーストラリアなどから指導者、生徒・父母870名余が参加。

1980年代

1983年（昭和58年）7月、第6回世界大会を初めて日本（東京・松本）で開催。世界22の国と地域から1500名が参加。

1990年代

1998年（平成10年）長野冬季オリンピック記念コンサート「平和への演奏、世界へ響け1000人の子どもたち」に、20数カ国の生徒が出演。（長野市）

1999年（平成11年）豊田耕兒会長就任。

2000年代

2002年（平成14年）信州大学と研究協力協定を結ぶ。
2004年（平成16年）第50回記念グランドコンサート（日本武道館）と国際シンポジウムを開催。

2007年（平成19年）スズキ・メソード0～3歳児コースがスタート。

2008年（平成20年）中嶋雄会長就任。

2010年代

2012年（平成24年）10月、「公益社団法人才能教育研究会」に移行。
2013年（平成25年）3月、第16回世界大会を松本で開催。日本で4回目の大会に世界36の国と地域から5400名が参加。鈴木裕子会長就任。

2017年（平成29年）早野龍五会長就任。
東京大と共同研究契約を結ぶ。

2020年代

2019年（令和元年）11月、ローマ教皇フランシスコ来日時にスズキ・メソードの生徒、指導者が御前演奏。
2021年（令和3年）全国指導者研究会、夏期学校を初めて全プログラムオンライン配信で実施。夏期学校が第70回を迎える。

2023年（令和5年）4月、軽井沢のG7外相サミットで、スズキ・メソードの生徒が歓迎演奏。

スズキ・メソードの特別講師は、スズキ・メソードと縁が深く、
国内外の一線で活躍する音楽・教育の専門家です。



東誠三先生
ピアノ科特別講師
特別講師長



竹澤恭子先生
ヴァイオリン科特別講師



江口有香先生
ヴァイオリン科特別講師



荻原尚子先生
ヴァイオリン科特別講師



倉田澄子先生
チェロ科特別講師



菊地知也先生
チェロ科特別講師



山本裕康先生
チェロ科特別講師



宮前丈明先生
フルート科特別講師



臼井文代先生
ピアノ科特別講師



村尾忠康先生
0～3歳児コース特別講師

特別講師の紹介 ~私たちもスズキ・メソードを応援しています~

創始者 鈴木鎮一について



スズキ・メソード創始者
鈴木 鎮一

1898年10月17日名古屋に生まれる。市立名古屋商業学校卒業後、1920年に上京、徳川義親侯爵家に寄宿してヴァイオリンを安藤幸（幸田露伴の妹）に師事する。翌年、徳川候爵の世界一周旅行に同行してベルリンに留学。カール・クリングラーに学び、また相対性理論で有名なアルベルト・アインシュタインからも薰陶を受ける。1928年結婚し帰国。帰國後3人の弟たちと「鈴木クルツェ」を結成、活発な演奏活動を始める。1931年ロシアのヴァイオリニスト、アレキサンダー・モギレフスキーラととともに帝国音楽学校を東京に設立し、教授に就任、その後校長となる。1937年頃から江藤俊哉、豊田耕児、小林武史・健次兄弟、鈴木秀太郎、有松洋子らを指導する。1943年長野県木曾福島に疎開。1946年長野県松本市下横田に松本音楽院を開設し、院長に就任。同年才能教育研究会の前身である「全国幼児教育同志会」を結成、1948年に「才能教育研究会」と改称し生涯にわたり会長として同会の発展に尽力した。1996年松本市に鈴木鎮一記念館が開館。1998年1月26日永眠。享年99歳。米ニューイングランド大学ほか世界の9つの大学より名誉音楽博士号・名誉博士学位を授与された。英サンデータイムス紙の「20世紀をつくった1000人」の1人。黙三等瑞宝章。松本市名誉市民。

鈴木鎮一に関する新たな学術研究紹介

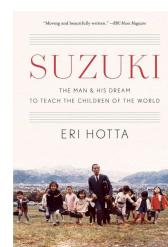
鈴木鎮一没後25年が経過し、20世紀全体に重なる鈴木鎮一の生涯を時代背景とともに学術研究の対象として研究する動きが出ています。スズキ・メソードの歴史的意義を考察し今後の教育・音楽の発展のために貴重な示唆をもたらす可能性を秘めています。



伊藤彩子/ジーゲン大学出版2021年

Die Suzuki-Methode und ihre Genese 'Fallstudie zu einem musikpädagogischen Transkulturationsprozess'

ドイツ在住日本人ピアニストによるスズキ・メソード及び鈴木鎮一に関する研究書。日独で音楽教育を受けた著者は、徹底した文献研究と関係者インタビューにより鈴木鎮一及びスズキ・メソードを学術研究対象として客観的に解説しています。鈴木鎮一も留学したドイツでの経験をもとに、スズキ・メソード発祥の歴史社会学的解明や文化圏を超えて受容された理由の分析を行い、更なる研究として世界における現在のスズキ・メソードのレッスン聽講と戦時統制下での鈴木鎮一の活動調査が必要と述べています。序文と謝辞及び全編を総括する概要は英文・日本文でも書かれています。



堀田江理/ハーバード大学出版局2022年

SUZUKI 'THE MAN & HIS DREAM TO TEACH THE CHILDREN OF THE WORLD'

米国在住日本人歴史研究家による、「鈴木鎮一」というブリズムを通して観た20世紀史。前半は、西洋音楽が近代日本社会に浸透していくなか、鈴木が48歳で才能教育運動に人生の後半を捧げることになるまでの様々な出来事を追っています。後半は、幼児の成長の可能性に戦後日本の未来を託した鈴木が、より一層の熱意をもって才能教育運動を活性化させ、やがてそれが「スズキ・メソード」として世界に定着する様子が語られます。巻末では、スズキ・メソード後継者たちの、今日に続く理念継承努力についても触れています。歴史的価値のある写真も掲載された英語の著作は、鈴木鎮一やスズキ・メソードの世界を、より広い読者層に紹介する作品となっています。



東京藝術大学/シンポジウム2023年

鈴木鎮一と音楽の近代 -SPレコード音源とその社会文化的背景の検証を通じて-

東京藝術大学の大角欣矣教授を中心とした「20世紀前半のヴァイオリン演奏様式の包括的研究」と題された研究プロジェクトでは、音楽家としての鈴木鎮一を近代メディア発展との関わりから考察するという画期的な研究を行い、その研究結果が披露されました。蓄音機技術（レコード）の大衆化を「聴いて育つ」母語教育法の実践普及に最大活用させた先進性、またそれをもたらした社会環境や鈴木鎮一の生き立ちなどが多面的に分析され、従来の鈴木鎮一研究とは異なる貴重な研究となっています。



開催日：2023年10月21日（土）東京藝術大学音楽部第6ホール

研究報告書

<https://geidai.repo.nii.ac.jp/records/200019>